

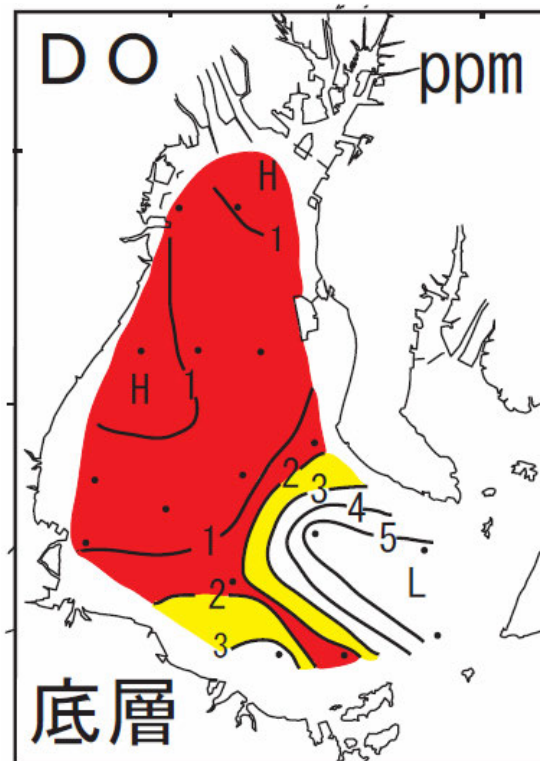
伊勢湾貧酸素情報（第 2 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

底層の溶存酸素量は先月よりもさらに低下した。湾中央部を中心に広い範囲に 2 ppm 以下の貧酸素水塊が形成されており，三重県側の沿岸域では 1 ppm 以下となっている観測点もみられる。

7月3日の調査結果

7月3日の調査船「あさま」の定線観測によると，水温は表層で 23.7~25.0 ，10m で 18.7~21.7 ，底層で 16.4~19.8 の範囲にあり，表層でほぼ平年並みからやや高め，10m と底層では平年並みから低めとなっていた。塩分は表層で 17.23~30.15 ，10m で 31.78~33.12 ，底層で 30.23~34.28 の範囲にあり，全層で平年値より高い測点が多かった。DO（溶存酸素）は表層で 6.8~11.5ppm ，10m で 2.0~6.6ppm ，底層で 0.2~5.7ppm の範囲にあり，表層では湾奥で高く，湾口部で低め，10m では湾中央部で高め，底層では湾中央部の深所を中心に 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されており，貧酸素水塊の範囲は先月よりも広がった。調査時，表層で高温，底層で低温・高塩分傾向のため，上下混合が起こりにくく，底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後，その動向を注視する必要がある。また，表層では湾口部を除いて *Thalassiosira* spp. を主体に植物プランクトンが多く，透明度も低下していた。



底層貧酸素水塊分布